令和４年３月 31 日
県立七里ガ浜高等学校長

令和３年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 22 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図り、進路実現に向けた支援を推進する。 ②国際理解教育等を通して、生徒一人ひとりの自立に向けて、視野を広げ豊かな人間性と社会性を育成する。	①生徒の学力向上のため、学習環境の整備を行うとともに、「授業力向上推進重点校」として組織的な授業改善を図る。 ②海外修学旅行や姉妹校交流などの教育活動を通して、生徒一人ひとりが主体的に取り組める企画の推進に努める。	①ICT 機器を用いた授業や課題などの多様な学習機会の提供を図る。 ②生徒の主体的な取り組みとなるような国際交流の環境を整える。	①ICT 機器を用いた授業展開や課題を行った教員数が増加したか。生徒の学習意欲の向上が見られたか。 ②生徒が主体的に取り組める場面が増えたか。	①教員に対して ICT 研修を実施し、多くの教員が ICT 機器を使用した授業力が向上し、生徒の学力を向上、深化させることができた。 ②45 期生の修学旅行は、行き先を台湾から沖縄に変更し、令和４年４月に行う。スウォン外国語学校との姉妹校交流は、オンラインで 11 月に行った。事前指導で韓国語の講座を行った、また自己紹介の動画の作成など、事前の準備を充実させ、生徒たちにとって有意義な体験となった。	①次の１学年は一人一台の端末及び、デジタル教科書、各種学習用コンテンツも導入する。教員のスキル及び教員・生徒のリテラシーの向上に力を入れる必要がある。 ②事前の準備から生徒が主体的に取り組める環境を整え、国際理解教育の推進に努める。	・授業の基本は生徒・教師が対面で相手（生徒）との協調や思いを育てていくもの。オンライン授業が普通にならないでほしい。 ・ICT 端末でのトラブル防止に向け、安全安心に利用できる体制の構築をしてほしい。 ・コロナ禍で難しい面もあるが、特色を出していくためにも ZOOM などを利用し、姉妹校交流等の機会を増やせたらよい。	①オンライン授業を契機として、教員の ICT スキル、ひいては授業力の向上が見られ、生徒の意欲の向上とキャリアアップにもつながった。 ②海外修学旅行から、国内への旅行になったが、「１日ホームステイ」を計画するなど、異文化を身近に経験できる企画を計画した。姉妹校交流や修学旅行について、今後もオンラインを利用するなど、工夫が必要である。	①次年度以降の一人一台の端末等の導入をにらみ、さらなる ICT スキルと授業力の組織的改善をはかり、生徒の学習意欲の向上を目指す。また、生徒のリテラシーの向上にも力を入れていきたい。 ②オンラインの利用や、事前学習の充実など、今後も工夫をしながら、国内での異文化体験を充実させていき、生徒が主体的に取り組める環境を整える。
2	生徒指導・支援	①生徒のさまざまな活動の主体性を尊重し、生徒に向き合って、リーダーシップを育成する。 ②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を定着させる。	①生徒組織それぞれの自主的・主体的な運営と有意義な活動を目指し、適切な指導と助言を行う。 ②基本的生活習慣の確立とともに、生徒の健康に配慮した支援を行う。	①生徒会本部、各種委員会、部活動の運営方法を再検討し、再構築するための生徒同士が話し合う場を設け、各種活動全体の活性化を促すための場づくりや整理を行う。 ②生徒の変化について適時性を持ち確認するとともに、チームとして生徒情報の共有化を図り、適切な支援を行う。	①各種活動において、生徒自己評価を実施し、活動満足度を計り、評価する。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーお よび外部機関との連携を増やすことができたか。 遅刻等の指導の回数が確保できたか。	①概ね目標達成された。生徒活動満足度には好影響を及ぼし、各種活動検討を重ねたことによる生徒の納得度は明らかに向上した。 ②コロナ禍において社会状況が変化する中での指導であった。基本的生活習慣の確立としては、遅刻指導は 12 月で微増しているが、1 月、2 月は担任指導の範囲となっている。また、ケース会議も年間で 5 回行っており、来年度につながる指導を行っている。	①突然の予定変更にも対応できるような事業の体制、規模の適正化や実施精査を、持続可能な事業づくりと伝統継承とともに、引き続き取組む必要がある。 ②感染症の防止を前提にした生徒への指導が不可欠になる。安定した学校生活を送れるように、生徒の精神面に寄り添う指導を粘り強く続けていく必要があり、教育相談コーディネーターとケース会議のさらなる活用が求められる。	・コロナ禍の中で難しい面もあったと思うが、生徒の活動を可能な範囲で確保したことは評価できる。 ・遅刻・通学に関するマナーについては苦情が寄せられるにしても仕方ない面があるのではないか。 ・同窓生で校医でもある医師がなんでも相談を校内で開催している。また、一般財団法人「なぎさ奨学会」を設立し、給付型奨学金などを実施している。活用を期待する。	①生徒との対話を、特に行事運営時に重要視し行ってきた結果、良い活動満足度につながった。今後も突然の予定変更は想定され、素早く明解な対応を行うことが必要である。 ②遅刻指導や通学指導を通じて生徒への声掛けを行うことで、生徒の基本的生活習慣の確立に寄与できているため、継続した指導を行っていく必要がある。 また、生徒の健康に配慮した支援も感染予防等の観点からの指導を行うことができた。来年度以降も、身体面、精神面どちらも寄り添う指導を継続していく。	①生徒と定期的かつ機動的に打合せを行うことで、深い意思疎通を取り、生徒活動確保に努めることや、事業の体制、規模の適正化や実施精査を、持続可能な事業づくりと伝統継承とともに取組む。 ②江ノ電の乗車マナーや、登下校でのマナーなど、声掛けや指導を行うべき点がある。状況に応じて登下校に関する指導を行う必要がある。 また、教育相談コーディネーターとスクールカウンセラーの連携を密にし、生徒支援を充実させて行う必要がある。
3	進路指導・支援	キャリア教育を充実させ、目的意識を持って	生徒の希望する進路を実現させ	1 年次に自己を知る機会を設け、2 年次	説明会やガイダンス、体験の機会、	予定通り時期に応じた各種ガイダンスと説明	個々の取り組みを有機的に結び付けるように	・進路指導は計画的に実施されていると評価できる。	・３年生の中には学校	・指定校推薦で合格

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 22 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		学習に取り組む姿勢を育む。	るため、生徒自身が考え判断する力を育てるとともに、必要適切な支援を行う。	に進路の方向性を示し、3 年次には、進路決定の具体的な活動を行う。	各種試験を有機的に結び付けて行うことができたか。	会を実施することができた。小論文、面接指導等もきめ細かく行うことができた。	時期や内容を工夫し提供したが、受ける生徒がそれらの内容を総合してアウトプットする機会を増やし、さらに自ら進んでインプットする意識付けがさらに必要である。	色々な職業、伝統工芸などの紹介を通して選択肢の幅を広げるという発想も必要ではないか。 ・指定校推薦決定後の生徒の授業態度や、他の受験生への気遣いに対する指導を行ってほしい。	推薦型選抜を利用せず、一般選抜で難関大学に合格する例が多く見られた。 ・総合的な探究の課題発表や教科の自由研究の中にオリジナリティのある優れた発表があった。	した生徒に対して、卒業までの学修計画を立てさせ、個別にフォローしていく必要がある。 ・日常の教科学習でより探究的な視点を取り入れ、生徒が主体的な深い学びを経て、成長・発展できるよう支援する必要がある。
4	地域等との協働	地域などの教育力の活用や地域等への貢献活動を通して、地域に信頼される学校づくりを推進する。	地域に貢献できる教育活動の充実を図る。	地域との交流を深め、地域防災について連携をさらに深める。	防災教育において具体的な地域理解及び体制づくりができたか。	予定通り実施できた。生徒の防災への意識が向上した。	地域との連携を深めつつ、今後も防災教育の推進を強化していく。	・コロナ禍だったので非常に難しい状況が続きました。今後も地域と交流の継続を期待する。 ・海辺に位置する七里ガ浜高校ならではの防災教育が、地域との連携により実施されている事が理解できた。	厳しい社会情勢の中でも、防災訓練や地域理解活動を予定通り実施することができた。今後も地域と連携し、生徒の防災への意識を高めていく。	想定外の地震や津波に備えるために、地域の特性を理解する活動を実施する。また、早い時期に地域の協力を得ながら防災訓練を実施する。
5	学校管理 学校運営	①安心・安全な教育環境の整備に努めるなど、教育課題に対して積極的に取り組むとともに、学校の取り組みの情報発信に努める。 ②教員の働き方改革を推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①継続した生徒の学習活動の整備・充実に努める。 ②業務の効率化を図り、長時間勤務を是正する。	①校内美化の活動及びチェック体制を整えるとともに、学校備品の維持・管理に努める。 ②勤務時間管理システム、閉庁日を活用し、ワークライフバランスの調和を図る。	①校内美化活動の内容を向上させることができたか。学習環境を向上させることができたか。 ②時間外勤務が月当たり 45 時間以上の職員数が減少したか。閉庁日が実施できたか。	①美化活動は概ね予定通り実施することができた。生徒トイレの全面改修、テニスコートフェンス改修、階段手すりの設置等を実施した。 ②月当たり 45 時間以上時間外勤務の職員数は 4 月には 23 名だったが、2 月には 9 人と減少した。また、閉庁日は実施できた。	①引き続き、生徒の学習活動の整備・充実に努めていく。 ②時間外勤務の多い職員数は減少したが、決まった職員となっていることから、業務分担の再考が必要である。	・微力ながら同窓会としても可能な範囲で教育環境整備に協力する。 ・働き方改革は進めるべきであり、業務の効率化を測るためにも学校運営協議会を廃止したら如何か。資料作りを考えると職場の改善に逆行していると思う。 ・教員の心身の負担が減る様な学校管理運営が行われる事を望む。	美化活動は予定通り実施することができた。生徒トイレの全面改修、テニスコートフェンス改修、階段手すりの設置等を実施することができた。引き続き環境整備に努める。 勤務時間管理システムを活用し、時間外勤務の多い教職員に対し産業医との面談を実施した。しかし、さらなる改善のためには業務内容の見直しが必要である。	海が近く、風が吹き込みやすい形状にあるため、チリや埃の量が著しく多い。このことから、さらに掃除に係る工夫を実施する。 業務内容・分担の見直しと、会議や研修の必要性を見極めることが常に必要である。従前のやり方を見直しつつ、業務内容の取捨選択をしていきたい。